

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 桜丘 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

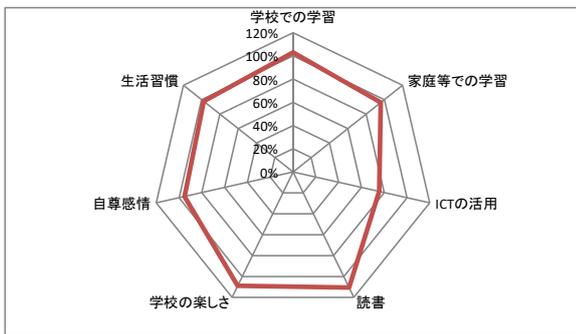
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っているが、「書くこと」の項目に関しては、全国平均正答率を上回っている。 ・「読むこと」の項目の正答率が低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	文章全体の構成や書き表し方に着目して文章を整えたり、自分の文章の良いところを見つけて書いたりする問題。	
	努力が必要な問題	分掌の表現の効果を考えたり、登場人物の関係性について描写をもとに捉えたりする問題。	
算数	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っているが、「数と計算」領域においては、全国平均正答率とほぼ同等の正答率である。 ・他の領域の問題の正答率が低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	加法・乗法の計算や、目的に合った数の処理の仕方を考察する問題。	
	努力が必要な問題	割合に関する問題、図形の構成要素に関する問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を下回っている。特に、A区分「粒子」を柱とする領域の正答率が低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	光の性質に関する問題。	
	努力が必要な問題	総じて「思考・判断・表現」を問う問題の正答率が低い。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「読書」に関する回答、「学校の楽しさ」に関する回答は、全国平均を大きく上回っている。 ・「学校での学習」に関する回答は、全国平均より高く、主体的に学習に取り組むことができている。 ・「家庭等での学習の時間」に関する回答、「ICTの活用」に関する回答は全国平均を下回っている。 ・「自分にはよいところがある」の回答は下回っている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・ICT等を活用し、児童一人一人に応じて各教科の基礎的・基本的な問題を解いていく補充時間を設定し継続して実施することで定着を図る。
・ICTを活用し、児童一人一人の興味・関心のある内容に個別に対応できるようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・宿題の内容や量について見直し、発達段階に応じて自学ノートの活用を図る。
・朝食の大切さやスマートフォンの使い方等について、学校通信や学年通信、懇談会等で保護者に伝える。